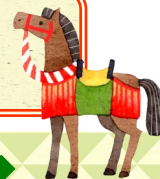




皆様、明けましておめでとうございます。
関係団体の方々より新年のご挨拶をいただきました。



◆ 経済産業省 ◆

経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車リサイクル室長
小野 正 様

平成26年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
平素より、自動車リサイクルの推進に、ご尽力いただき、
厚く御礼申し上げます。

昨今、自動車の使用年数が長期化しており、昨年度の平均
使用年数をみると14年を超えてきています。また、自動車
保険料率の改正により、自費修理の機会が増加することも
見込まれるなか、高年式車両のみならず、低年式車両に
対する部品交換の需要がこれまで以上に高まり、補修部品
市場においてリサイクル部品の利用拡大が期待されるところです。

さらに海外に目を向けると、新興国を中心とした自動車
市場の拡大に伴う中古自動車輸出が増加するなか、それに
伴う補修部品需要が発生し、リサイクル部品の需要も更なる
拡大が予想されるところです。

こうした機会をリサイクル部品の市場拡大に結び付けていく
ためには、供給されるリサイクル部品の使用履歴などの情報が
提供され、適切な評価のもとでユーザーがリサイクル部品を
選択できる基盤が構築されることが重要と考えております。

本年、解体業界の皆様にもご参加いただき、リサイクル部品
に関する情報提供、共有のための規格策定に向けた検討を
進めてまいりますので、ご協力のほどお願いいたします。

本年も日本ELVリサイクル機構の益々の発展、並びに会員
皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

◆ 環境省 ◆

環境省 廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室 室長
庄子 真憲 様

平素より、自動車リサイクルの推進を通じた循環型社会の
構築に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

国では昨年5月に新しい『循環型社会形成推進基本計画』を
策定し、その中で質にも着目した循環型社会の形成を目的と
して、2R(リデュース・リユース)の取組強化や、使用済製品から
の有用金属の回収、水平リサイクル等の高度なリサイクル等を
推進することとしています。

既に自動車については、自動車リサイクル法に基づき、解体・
破砕業者によって部品リユース・リサイクルが積極的に行われて
いるところですが、今後はリユース部品の一層の利用やレア
メタルの回収等を進め、ASRの発生量を抑制することがます
ます重要です。この実現に向けて、環境省では解体工程での
基板からの貴金属回収実証事業などの「自動車リサイクル
連携高度化事業」を平成23年度から実施しており、日本ELV
リサイクル機構にご参画いただいているところです。この場を
お借りして、関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

今後、次世代自動車の普及が見込まれる中、解体業者の
技術・能力向上も重要な課題の一つです。日本ELVリサイクル
機構が昨年始められた自動車リサイクル士制度については、
解体業者から多くの参加があり、また、地方自治体からも高い
関心を寄せられていると伺っており、この制度が担う役割に
大いに期待するところです。

末筆ながら、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、
年頭の御挨拶とさせていただきます。

◆ 自動車リサイクル促進センター ◆

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター 専務理事
葛西 健洋 様

新年明けましておめでとうございます。

私ども自動車リサイクル促進センターは、昨年6月に
自り法に基づく指定法人として満10周年を迎え、無事に
記念行事を開催することが出来ました。貴機構並びに
会員各社の皆様の、日頃からのご支援とご協力に対し、
改めて心より御礼申し上げます。

自動車リサイクルの喫緊の重要課題であります東日本
大震災による番号不明被災自動車に関しましては、
昨年末の申請総台数が12.2千台を超え、処理の完了に
向けての目途がついてきたところです。残された被災
車両への対応を含めて、本年も自動車リサイクル
システムの安定稼働に万全を尽くす所存でございます
ので、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、宜しく
お願い申し上げます。

◆ 自動車再資源化協力機構 ◆

一般社団法人 自動車再資源化協力機構 代表理事
加藤 忠利 様

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン類・エアバッグ類の適正処理へのご理解と
ご協力をいただき、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、金融政策による株高・円安が加速したアベノミクス
効果やおもてなしの心による東京五輪開催決定など明るい
話題と伊豆大島等の暴風雨災害が多かった年でもありました。

自動車リサイクル業界を取り巻く環境は、使用済自動車の
発生量が震災前の水準に回復するも、仕入難や仕入価格
高騰など依然として厳しい経営環境下と認識しております。

一方、貴機構で取り組まれた「自動車リサイクル士制度・認定
講習会」は多くの有資格者を生み、行政関係者も多数来場
されるなど関心の高さが見られました。本活動を通じて業界の
信頼と社会的な地位向上に貢献されたことは、貴機構に
としまして一皮も脱皮された年であったかと思えます。

また、貴機構で継続的に取り組まれているリサイクル技術
構築等の社会連携活動も、今後の業界の舵取りを行う上で
重要なことと見ております。

当機構も10周年を迎えることとなり引き続き、業界の健全で永続的な
発展のために、情報発信と適正処理の推進活動に努め、
貴機構並びに全国の解体業者の皆様らにフロン類・エアバッグ類の
適正処理の輪が広められることを切に願っております。

最後になりましたが、貴機構の益々の発展並びに会員
皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



日本ELVリサイクル機構の正副代表理事より
新年のご挨拶をさせていただきます。



◆ 運命の扉は大きく開かれた ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 代表理事
河村 二四夫

会員の皆様には、新年を迎えお喜び申し上げます。昨年は激動時代の中、皆様方には大変お世話になり、本誌を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年は、皆様方のご協力により、ELV機構の長年の懸案事項であった自動車リサイクル士制度がスタートしました。つまり、“運命の扉は大きく開かれた”のです。この制度は、自動車リサイクル業の認知度向上と人材育成を目的としており、必ずELV機構会員の皆様にとって、活力の源になることと確信しています。

回収高度化事業は、3年目の集大成であり、貴金属等の回収事業とネオジム磁石の回収事業を1月～2月に終了させ、東京大学 村上准教授の協力を得て、本部にて事業結果のとりまとめを行い、3月に事業報告書を環境省に提出します。事業の成果を地域・ブロックの協同事業に生かして頂き、ELV機構会員による地域での連携事業への活用を目指します。

現在の厳しい経済環境下では色々悩みが多いと思いますが、我々の選択は、法令順守・安全作業・環境配慮が基本原則であり、それらを継続していくことが大切です。これに向けて、自動車リサイクル事業者の新プログラム「優良事業者制度」の論議をスタートします。これは、真面目に業務を行っている事業者が報われる社会を目指した取り組みです。ELV機構発のリサイクル文化を世の中に広める新事業です。将来は「自動車リサイクル版ISO企画」のグローバル化を考えています。JAPANモデル戦略です。

夢を大きく掲げ、次世代に向け事業進化を図り、自動車リサイクル産業の発展へ一枚岩となっていけるよう皆様のご協力をお願いいたします。本年もよろしくご指導願います。

ELV Newsletter

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター
(ELV Newsletter)

編集・発行責任者

日本ELVリサイクル機構
広報部会 部会長 永田 則男

お問い合わせ先

日本ELVリサイクル機構 事務局

〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2-2 美ビル5F

◆メール jaera-homepage@elv.or.jp

◆Tel 03-3519-5181

◆Fax 03-3597-5171

◆HP <http://www.elv.or.jp/>

目次

新年のご挨拶	
～ 関係団体より ～	 1
巻頭言	 2
新年のご挨拶	
～ 正副代表理事より ～	 2 ～ 3
鉄スクラップ最新情報	 4
行事予定	 5
お知らせ	 5
編集後記	 5

巻頭言

新年明けましておめでとうございます。

自民党への政権交代から1年過ぎましたが、三本の矢と称し、様々な政策を展開してまいりました。また、昨年オリンピックも東京で開催出来るようになりました。

日本ELVリサイクル機構も、これからの展開として昨年8月から、自動車リサイクル士の講習会がスタートし、12月で全国での認定講習会が終了しました。本年も自動車リサイクルに携わる方々と協力して、講習会を未来に繋げることが願っています。

本年も、何卒よろしくお願いいたします。

(広報部会委員 伊地知 志郎)

◆ ELV機構会員の皆様 ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
伊丹 伊平

ELV機構会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年はインストラクター制度構築時からの懸案でありました、自動車リサイクル士資格制度への移行を無事スタートさせることができました。これも偏に関係各位のご協力と皆様の業界への熱い思いのおかげ、と感謝しております。

しかし、勢いよくスタートダッシュはしましたが、正念場は今年です。自動車の技術革新に終わらないように、自動車リサイクル技術もリサイクル高度化への終わらない挑戦です。その教育の証しとして自動車リサイクル士はあります。業界人全員に、自動車リサイクル業に携わる者の誇りとして資格者になって頂く、そのための道筋をつけるのが今年です。

また、環境省の支援で行ってまいりました「自動車リサイクル連携高度化事業」では、個社では難しい希少金属等のリサイクルを同業者、関連業者との連携でビジネスとして可能かどうかの試行を重ねてまいりました。本年がその集大成です。

どちらの事業も皆様のご参加なしでは成立致しません。皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

◆ 2014年新年所信 ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
長谷川 利彦

新年あけましておめでとう御座います。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は自リ法の改正に向けた見直しに伴い様々な動きがみられる年でした、本年もさらに動きが活発になる気配がありますが、関係省庁の協力依頼に対して、今後ELV機構の発言をより重き意見として取り上げていただく事を主眼に置きたいと考えています。実際にELV車両のほとんどを我々が扱っている事が周知の事実です、またその重みを国の機関に本当に理解してもらわなければなりません。

なぜなら、地方の監督機関の動向は、自リ法の扱いに各自治体ごとに温度差が感じられ、元来フロンガス、エアバッグ、シュレッターダストの処理金額を先払いしてある自動車に対して、本来のリユース、リデュース、リサイクルを活性化する目的が忘れられていること、そして国が本来推進すべきリユースを阻害していると感じられないからです。

法律の扱いは全国均一の監督指導がなされるべき事項であるべきと考えますが皆さんの地区はいかがでしょう？今後、全国の皆さんの現状もご意見いただき地方ごとの関係監督機関の差異を訴えることも必要なのではと思います。

◆ 新年おめでとうございます ◆

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 副代表理事
吉川 日男

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は、自動車リサイクル士制度の構築に、多大なるご協力を頂きまして、ありがとうございます。特に、インストラクターの皆様方には、実務運営から講師の役割まで作業分担良くご協力頂きましたことにより、全国9会場で均一な講習会が実行できました。改めて、御礼申し上げます。

皆様方のおかげを持ちまして、全国の行政関係者を始め今回の受講者や関係会社また、講習会実行にご協力頂いた関連団体からは、高い評価と継続に向けた温かいご支援を頂きました。

本年は、これを元にインストラクターの皆様や関連団体の方々のご意見も参考にして、実務士講習の本格的運用ができるように実行していきます。インストラクターの皆様には、今後、各地区にて中心的な役割をになって頂けるよう執行部、事務局及びリサイクル技術部会一同努力いたします。引き続きの御協力をお願いいたします。また、関連団体の方々には、昨年同様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。本年は、自動車リサイクル業界に貢献できるような活動を推進できればと思っております。

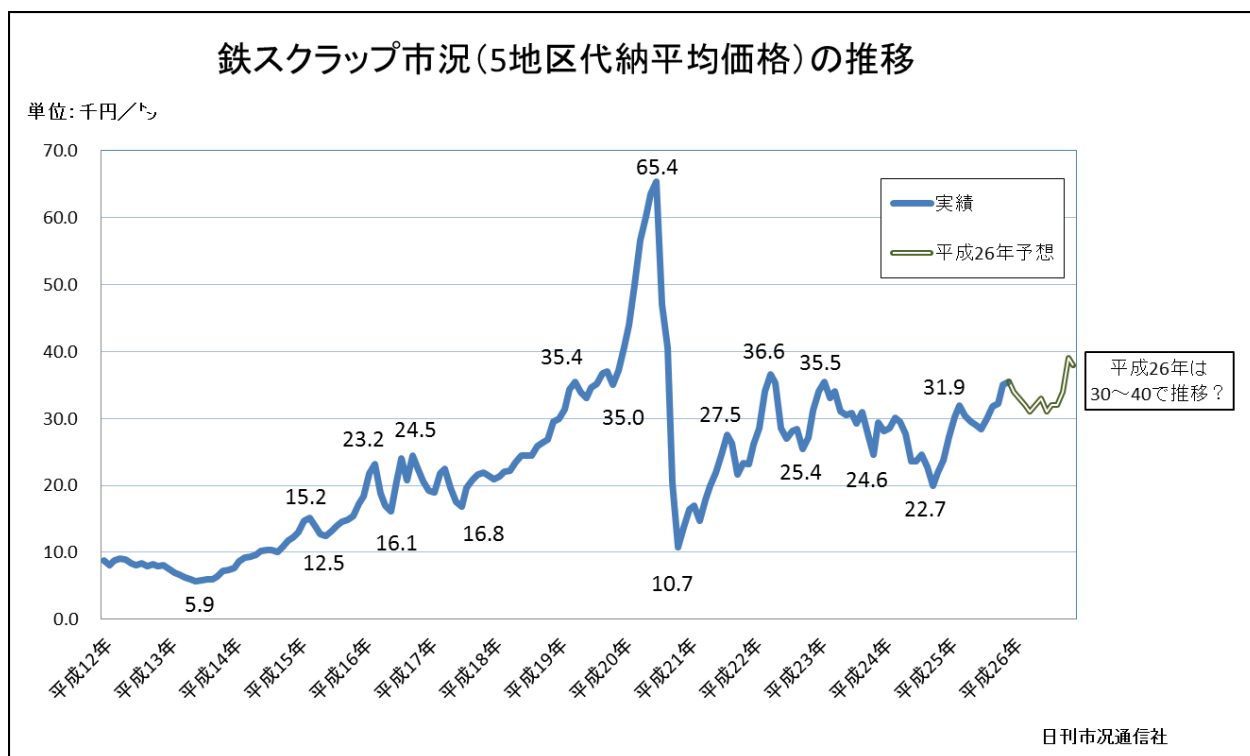


会員の皆様、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。
2014年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2014年の鉄スクラップ業界の見通し

[提供／日刊市況通信社]



2014年の鉄スクラップ市況は、国内では需要が底堅さを維持すること、海外では円高是正がさらに進むと見られることから、基本的に堅調な相場推移となりそうだ。

日本鉄鋼連盟は「2014年度の鉄鋼需要の動向について」を発表した。これによると、2013年度の粗鋼生産は、3年ぶりに1億1千万トンを上回る見通し。2014年度の国内鉄鋼需要は、建設部門では、消費増税の影響から住宅投資の落込みは避けられず、経済対策による公共事業の効果も前年度を下回ると見られる。製造業部門は、造船が底入れに向かい、国内の設備投資関連も持ち直しが期待されるものの、最大ウェイトの自動車については消費増税等の影響が大きく、全体では前年度を下回るものと想定される、としている。

また海外鉄鋼市場は、「需要が総じて堅調に推移しているものの、中国・韓国における大幅な鉄鋼生産能力増強の影響を受け、アジアを中心に鉄鋼需給は大幅に緩和している。こうしたなか、日本の鉄鋼輸出は13年央以降、横ばい基調となっている。2014年度も、需給環境は大きく変化せず、鉄鋼輸出は概ね前年度並、輸入は高水準が継続する」と予測している。

この結果、2014年度の粗鋼生産は、海外市場の動向等が大きな変動要因となるが、住宅投資、自動車販売など消費増税に伴う個人消費関連需要の落込みを主因に、前年度を若干下回る見通しだ。

こうした状況を考えると、製鋼原料の鉄スクラップの国内需給は2013年よりも逼迫することは考えにくく、鉄スクラップ相場が2013年末の水準から急騰する可能性は低い。その一方で粗鋼生産は一時に比べると回復しており、さらにアジアの粗鋼生産がなお高い水準を保っていることを考えると、輸出価格が全体相場を下支えすることが考えられる。このため一気に相場が下落することも考えにくい。

なお弱気要因は日本の鉄スクラップが多く向かう東アジア諸国の動向だ。特に韓国経済の回復が進まない場合には、輸出価格が伸び悩む可能性がある。また中国は鉄スクラップの輸入量の増減が年によって激しく、高値となった場合は一気に購入を控えるパターンが多い。堅調な相場が続いたと仮定すると、中国向けの日本からの輸出量は2014年もそれほど伸びず、昨年同様に500万トン未満となる確率が高い。また近年の動向を見ると、中国が高値を牽引することも想定しがたい。

以上のことを勘案すると、2013年末の価格水準が依然高い水準にあることから1~3月は3万5000円(1トン当たりH2価格)を割り込むのは難しく、4月以降も下限は3万円程度とみられる。4月以降は、引き続き円安の進行、米国などの経済の好調さが維持されれば、高値は4万円に届くことも予想される。

年間を通して見ると、3万円から4万円の範囲内で上下して推移する堅調な相場が続くというのが一般的な見方と考えられる。

※当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本ELVリサイクル機構は一切の責任を負いません。

行事予定

■1月の主な予定

1月7日(火)

- ・年始挨拶回り

1月16日(木)

- ・組織検討会議

1月17日(金)

- ・第10回 広報部会

1月29日(水)

- ・第3回 回収高度化事業 事業検討委員会
- ・第8回 常任役員会

1月30日(木)

- ・第8回 リサイクル技術部会



お知らせ

■会員数(2013年12月現在)

会員＝670社／賛助会員＝28社

■新規ご入会者のご紹介(2013年12月ご入会)

賛助会員

愛知県名古屋市
「株式会社 3WM」様

神奈川県横浜市
「株式会社 アメロイド日本サービス社」様



■自動車リサイクル士制度講習会の報告

会員の皆様、関係団体の皆様のご協力によって、平成25年度の自動車リサイクル士制度認定講習会はすべて開催終了いたしました。

皆様、誠にありがとうございました。

各ブロック(全9会場)の開催報告は、ホームページに掲載していますので、ぜひご確認くださいませ。

(掲載場所: <http://www.elv.or.jp/14-0-0.html>)

編集後記

いよいよ平成26年が始まりました。果たして今年はどのような年になるのか、期待と不安が入り交じった情懷は毎年変わらぬところです。▲さて日本ELVリサイクル機構の我が広報部会の話になります。長年に渡りこのニュースレターを支えてきて下さった今城高之氏が昨年一杯で勇退されました。▲今城氏は自動車業界に精通されており、その経歴はJETRO、自工会、自再協と我々業界とは切っても切れない関わりのある組織で活躍されていました。我が業界の歴史を知る草分け的な人物といってよいでしょう。▲今城氏はELV機構に入られ、ニュースレターの編集に従事されました。歴史を知るが故のその深い洞察力と見識から執筆される味のある記事は、我々では到底まねできるものではありません。まだまだ教えて頂きたいことが多くあり、後ろ髪を引かれる思いですが甘えてばかりもいたしません。我々も今城氏の意思を受け継ぐとともに、意義あるニュースレターを精一杯、制作してゆく所存です。今後も何卒よろしくお付き合いの程申し上げます。

(広報部会長 永田 則男)